

当教会用

案 内

聖母マリア教区教会にお出でいただきありがとうございます。本教会はエセックス最大の教会で、全長55.8m、塔および尖頂の高さ58.8mであります。エセックスの地名の起源であります東サクソン人は異教徒でありました。しかし、紀元後7世紀に聖セッドによりキリスト教に帰依した後、この地にサクソン人の木造教会が存在していたことはほぼ間違いありません。1130年に存在していたとされます大規模なノルマン式石造教会が1250年から1258年の間の「文飾式」（13世紀末-15世紀初頭の英国ゴシック第2期の様式）期の初期様式により増改築されました。「垂直式」（英国ゴシック末期の様式）期による総改築が1450年頃開始され、現在の教会は英国教区教会中でも建築様式上高い地位を占めるものであります。しかし、尖頂および上塔は1832年に作られ、再建されたものでありますから、比較的新しいものであります。

※ ※ ※

教会内へお進みいただき、荘厳な「身廊」をご覧ください。奥行きと15mを超える高さは感動的で、「垂直式」期の傑作として注目されています。15世紀の重要な教会建築者のひとりでありましたジョン・ウエイステルが建築を担当いたしました。身廊の西端にサフロン・ウォールデンのバトラー卿、リチャード・オースチン（1902-1982）所属のガーター勲位旗がかかっております。この旗は本来ウィンザーの聖ジョージ教会堂のバトラー卿の座席の上にかかっていたものであります。本町名はサフランに由来するものでありまして、18世紀末まで約400年間にわたりましてこの地方で広く栽培されたものであります。屋根裏と三角小間には本教会に寄進しましたチューダー朝の名家の紋章とならびましてサフランを描いたものがあります。ところが、身廊および屋根裏浮き出し彫の彫り物を詳しくご覧頂くには双眼鏡が必要であります。1660年の勅令によりまして、どの教会にも掲げられるようになりました王の紋章が塔のアーチにつけられています。塔にはエセックス最大の響きを持つ鐘のひとつであります12ヶ編成の鐘が入っています。8ヶの鐘はもとの鐘の材料を利用して1798年に鑄造され、残りの鐘は1914年に追加されたものであります。サフロン・ウォールデンの鳴鐘者会は300年の歴史を持つ英国最古の会の一つであります。

左の方へ北側廊にお進みください。北柱廊（現在の聖具室）に通じます扉は約500年前のものとしてあります。壁面に固定されました9枚の真鍮聖像のうえに載せられています天蓋形ひさしは精巧で、切断されていますが、13世紀「文飾式」期教会からあるものです。この真鍮聖像はすべて過去数百年の間に顧みられることなく、理不尽にも破損されるのを

免れたものであります。最東端の窓は1820年から1884年にわたりましてオルガン奏者でありましたジョン・トマス・フライを記念するもので、フライは若干8才にしまして競争試験によりオルガン奏者に任ぜられた人であります。

北礼拝堂にお進みください。この礼拝堂は1526年頃に再建されました。無装飾「大理石墓所」は1489年以来1521年に没するまで教区牧師でありましたジョン・リーチのものであります。ジョン・リーチと妹のジョアンナ・ブラッドベリー夫人は本教会にとりまして物惜しみしない後援者でありました。祭壇上の「絵」は1791年に初代ブレイブルック卿により寄進されました。パルマ美術館所蔵のコレッジの有名な16世紀の絵画「聖ジェロームと聖母子」をピーターズが200年前に模写したものであります。伝承によりますと、「内陣屋根」はトマス・オードリーによりサフォークのサドベリにあります聖グレゴリウス教会から持ってきたものとあります。「内陣柱」は13世紀以来のものであります。「内陣仕切り」と「内陣高廊」は1924年に寄進され、感動的な内陣十字架像は1951年に入手されました。この年には、高廊にオルガン演奏台が設置されました。その「オルガン」は1824年製で、1971/2年に完全に増改築され、現在では最上の大聖堂オルガンと並ぶものであります。珍しい見ものであります「王のトランペット」は南側廊からご覧いただけますが、これは英国内でいまなお珍品とされているものです。この「王のトランペット」がはつきり身廊の方向に向けられているのがわかります。内陣仕切りをお通りいただき南礼拝堂にお進みいただきますと、この礼拝堂を建立しました「オードリー大法官のベルギー産黒石板墓所」がご覧いただけます。お戻りの際には南側廊にあります聖母マリア（本教会は聖母マリアに奉納されたものであります）と聖大ヤコブ（ウォールデン修道院と旅人の守護聖人）の立派な「現代彫像」にご注目ください。この「現代彫像」は1920年に入手されました。15世紀末の「八角聖水盤」にはオークを彫りました現代製の蓋がついています。西の大窓にあります「円形浮き彫り」は本教会唯一の宗教改革前のガラスで、アンジューのマーガレット王妃の肖像とされ、内乱をくぐり抜けてきたものであります。内乱当時クロムウエルのやや反抗的な分子が本教会をクラブに利用していたとの噂があります。

本教会の図入り案内書、絵葉書、本教区誌、書物およびパンフレット類は西口でお求めいただけます。

本教会の構造物は、数年にわたります大修復・復元計画によりまして現在は使用できる状態にありますが、この程度の規模と重要さを誇る本教会の維持管理費は巨費にのぼります。つきましては、わずかなりともご寄進いただけますならば有り難く存じます。ご寄進は青い寄進箱にお入れください。

聖母マリア教区教会をお訪ねいただき、お楽しみいただきましたことと存じます。本教会礼拝の詳細につきましては告知板に記してあります。ご都合のよろしい折に本教会の信仰生活にご参加いただけますことを衷心よりお待ちいたしております。先ずは、ご帰路のご無事をお祈り申し上げます。